

園生活への期待感をもち、自分のしたいことを見つけ楽しむことができる。



1学期より鬼ごっこが好きな子どもたちが数人、追いかけて鬼ごっこや助け鬼を楽しんでおり、A 児も何度か一緒に鬼ごっこに加わったことがある。

2学期になったある日、A 児が紙袋を持ち、登園してきた。A 児は日によっては不安な様子や、表情がかたいことがあるが、この日は登園後嬉しそうな表情で、「しっぽとりをしたいと思って、しっぽをつくってきた」と担任に話す。紙袋にはずらんとテープで三つ編みをした紐状のものがたくさん入っている。しっぽとり鬼ごっこをしたいと思い、家でクラス29人と担任分の30本のしっぽをつくってきたようだ。

朝の準備を終えると再び担任のもとにやってくる。担任「(朝の準備が)できた?」と尋ねると、A 児はうなずく。そこで、担任は「じゃあしっぽとりしよっか。どうすればいいの?」と声をかけると、A 児は「しっぽをつける。それで、そのしっぽをとる」と応える。担任「先生は何をしたらい?しっぽをつける?」と聞くと、A 児「うん。しっぽをつけて逃げて。A がしっぽをとるから」と言う。

**連携性**  
大勢の友達と一緒に遊ぶ楽しさを感じられるといいな。

**受容性**  
A 児が考えたことを実現できるようにしたい。

- ・自分の思いをもつ(未来像を予測して計画を立てる力)
- ・どうすればしたいことを実現できるか考え、実行する  
(批判的に考える力・未来像を予測して計画を立てる力・多面的、総合的に考える力)
- ・自分の考えや思いを言葉で表現しようとする(コミュニケーションを行う力・他者と協力する力)

自分のしたい遊びの中で、思いをより強くもって遊ぶようになり、  
その中でより難しいことに挑戦しようとしたり、もっと面白くしよう



A 児と B 児が水性ペンでプラスチック容器の底に色を塗り、その後水を入れるとききれいな色水ができることに気づき、赤、黄、青など様々な色の色水をつくって楽しんだ。

翌日、A 児が「今日はエメラルドグリーンつくるねん」と言い、青色の水性ペンと緑色の水性ペンを持ってプラスチック容器を塗り始めた。底面にちょうど半分ずつくらいの色の面積になるように、二色のペンで塗った。塗り終わると、「できた!」「やってみよう」と水道まで走っていき、蛇口をひねった。出来上がった色水を見て、満足そうに「見て」と担任や B 児に見せた。その後、青色と緑色の配分をかえて色水の微妙な色の変化を楽しんだり、様々な色や容器を使って試したり、「〇〇色になるかな」などと予想して確かめたりしながら何日も継続して楽しんだ。

**多様性**  
いろいろな色があること、色を混ぜると別の色になることの面白さを味わってほしい

**受容性**  
自分で考えたことを実際に行動に移したことを大切にしたい

- ・前日の遊びでの経験をいかして、よりおもしろくしようとする  
(批判的に考える力・未来像を予測して計画を立てる力・多面的、総合的に考える力)
- ・仮説をたてる  
(批判的に考える力・未来像を予測して計画を立てる力・多面的、総合的に考える力)
- ・考えたことをやってみようとする、確かめようとする  
(批判的に考える力・未来像を予測して計画を立てる力)

同じ場にいる友達、同じことに興味関心をもっている友達の声や行動などをよく見たり、聞いたりして、刺激を受け、自分の行動や言葉につながったりすることが多くなってきた。

バッタがたくさん見られるようになり、その魅力に引き寄せられるように、バッタとりを数人の子どもたちが始めた。虫取り網や虫かごをもち、草が少し長く伸びているところへと自然と足がむき、探している。A 児と B 児はそれぞれの子どもたちが自分でバッタを見つけたいとじっくりと草むらを探す。しかし互いに存在を感じるくらいの距離感で虫をさがしており、一緒に同じ遊びをしているという気持ちが伝わってきた。C 児は A 児や B 児の様子はそれほど気にせず、自分で黙々とバッタを探している。

B 児が自分の持っていた網でバッタをつかまえた。

担任「やったねー。つかまえたね、ほんとだすごい大きいバッタ」と一緒に喜び、バッタを網越しにじっくり見つめる。するとその声に A 児も C 児も近づいてくる。

A 児 B 児 C 児「虫かご!」「かごにいれて」「かご!」などとロクに少し興奮ぎみに言う。虫あみをもっている B 児に「(虫ケースに)いれていれて」と A 児や C 児が言い、B 児もバッタを網ごと持ち上げることはできたが、怖くてバッタは持てないようだ。

B 児「できひん」「誰かやって」

A 児「じゃあ私やる」

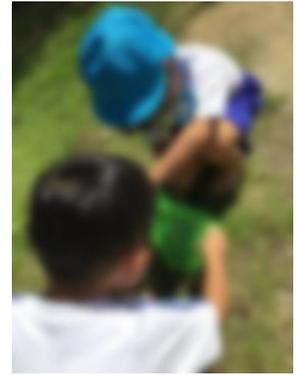
といってバッタを持とうと手を出す寸前のところでバッタから手を遠ざける。

A 児「あ〜やっぱりできない」「C やって」

C 児その声をうけて、網にバッタをいれたままケースに近づけていれようとするがうまく入れられない、すると「ぼくできない」と言い、バッタを持つことは難しいと訴えたようだ。

B 児「じゃあ B やる!」と再度チャレンジする。

A 児「ぶちゅっと持ったらだめなんだよ」と A 児も声をかける。それを聞いて、B 児は網ごとバッタをケースの入り口に近づけて、ケースにいれようとする。うまくケースに半分体が入り、少し出きそうになったので、担任が少し手助けをしてバッタが飛び出さないように手でカバーし、無事にバッタをいれることができた。B 児はとても嬉しそうにバッタを眺める。その後、次のバッタを探し始めた。結果的に3匹のバッタをつかまえた。



**受容性**  
バッタをつかまえた  
嬉しさに共感したい

**循環性**  
秋になり、身近な環  
境に出てきたバッ  
タに関心をもってほ  
しい

**連携性**  
子ども同士、友  
達の声を聞いて  
自分はどうする  
か考えたり、行  
動したりする

**多様性**  
どうすればうまく  
いくかの方法を  
考えてやろうとす  
る

・どうすればうまくいくか考える。工夫する。

(批判的に考える力・未来像を予測して計画を立てる力・多面的、総合的に考える力)

・自分の思いや考えを言葉で伝える(コミュニケーションを行う力・他者と協力する力)

・目的のために周りの様子を見ながら、自分でできることをしようとする

(批判的に考える力・未来像を予測して計画を立てる力・多面的、総合的に考える力・進んで参加する態度)

・季節の移り変わり、虫や生き物とのつながりを感じる(つながりを尊重する態度)

・友達の言葉に関心をもって、かかわろうとする

(批判的に考える力・多面的、総合的に考える力・コミュニケーションを行う力・他者と協力する態度)

気の合う友達だからこそ、友達がしようとしていることがわかって、力を合わせたり、場を一緒につくったり、声をかけたりすることができ、互いに通じることが嬉しいようだ。

数人の気の合う子どもがマルチパネを使って家をつくっている。四角い枠の家を2こ、間を約1メートルあけてつくった。すると A 児が「これと、これつなげよう」言いながら、隣り合った二つのマルチパネを見て言う。それを聞いて一緒に遊んでいた B 児 C 児 D 児も「いいね」と言ったり、嬉しそうな表情でうなずいたりして賛成した。

そこで A 児がマルチパネをさらに1つもってきて、2つの家の間に渡そうとし、B 児や C 児はその様子を見ている。初めはマルチパネの家、二つの間の距離が近すぎたようで、

A 児「ちょっとこれ、あっちにやらなきゃ」

と気づき、一方のマルチパネでつくった箱を押して、間の距離を離すとよいのではないかつぶやく。自分で調整しようとするも重くて動かない。すると、A 児「B 押して」と B 児に対して声をかける。

それを聞いた B 児は「わかった!!」と答え、家から降りて、後ろにまわり、壁を押そうとする。そのやりとりを見て、C 児が、「ぼく、見とくわ」と上にのぼる。A 児は渡したマルチパネを持ちながら、B 児は片方の家を押しながら、C 児は上から見ながら、3人がそれぞれマルチパネの間の距離を確かめるように見ながら、かかわっている。

A 児が「もうちょっと」「そのくらい」と声をかける。

ちょうどよさそうな距離感になったとき、A 児がマルチパネの上に上りジャンプをして力をのせて押す。すると連結部分がはまる。

「はまったー」「やった」「できた」など3人が口々に言い、喜んだ。互いに顔を見合わせて嬉しそうに笑った。



・自分の考えを言葉にして伝える

(コミュニケーションを行う力・他者と協力する態度)

・相手の言葉を聞こうとする(コミュニケーションを行う力・他者と協力する態度)

・相手がしようとしていることをわかろうとする

(未来像を予測して計画を立てる力・多面的、総合的に考える力・

コミュニケーションを行う力・他者と協力する態度)

・友達とタイミングや力を合わせようとする

(未来像を予測して計画を立てる力・多面的、総合的に考える力・

コミュニケーションを行う力・他者と協力する態度・進んで参加する態度)

**責任性**

友達の動きを見て、自分は何ができるかと考えて行動している姿を大切にしたい

**連携性**

マルチパネの特性をいかして、友達と力を合わせる楽しさを存分に味わってほしい

**相互性**

自分の考えたことをわかってもらえる、わかる楽しさを感じてほしい



興味関心の幅が広がってきている。

周囲の人のこと、自分の周りで起こる出来事をキャッチできるようになってくる。

A 児と B 児が乗り物置き場からスクーターを出して乗り始めた。この二人がスクーターに乗って遊ぶのは初めてだ。A 児が1メートル先を行き、後ろを B 児が行く。B 児はスクーターのバランスを一生懸命取りながら前に進んでいて慣れていない様子。

A 児「家に(スクーター)もってんねん」

担任「あーそうなんや」

B 児「B、もってない」

担任「そうなんやね。やってみようって思ったん？」

B 児は何も言わないが、表情が緩む。(うんっていうことかな・・・と担任は読み取る)

担任「じゃあ私もやってみようかな。一緒にやってもいい？」

二人「うん!!」と答えたので、担任もスクーターを取りに行くことにすると、その様子を二人はずっと見ながら待っている。

前を A 児が行き、B 児が続き、そのあとを担任が進む。少し進んでは振り返ったり、互いを確かめたりしながら列になって運転することを楽しんだ。B 児は慣れないためか、地面を蹴る足を3、4回蹴っては左右入れ替えながら進んでいる。B 児は丸芝生の周りを進み、雲梯で1度、木製家型遊具で一度、「休憩」と言いながらスクーターから降りて、少し座ったり、雲梯にぶら下がったりする。A 児はその間ニコニコしながら B 児を見ている。B 児もほんの少し休憩したら、またスクーターに乗るということを繰り返しながらスクーターに乗ることを楽しんだ。

・これまで経験のないことに取り組んでみようとする(進んで参加する態度)



**受容性**  
経験のないことに挑戦しようとする気持ちを大切にしたい

**相互性**  
友達がいるからこそやってみようとしている。友達とのつながりを大切にしたい



園生活の流れがわかり、一日の生活に見通しをもてることで、自分で考えたり周りの様子を見たりして意欲的に生活に取り組むことにつながっている

片付けの時間になり、保育室の中や運動場で遊んでいる子どもたちの多くが片付けをする雰囲気になった。A 児が担任に「先生ホールのみんなはまだ遊んでるよ。」と言う。担任が「ホールの人はまだ片付けて知らないかもしれないね」と伝えると A 児「じゃあぼく言ってくる」と言う。しばらくして戻ってきて A 児「もっと遊びたいから嫌なんだって」と言うので、担任「そっか。伝えてくれてありがとう。じゃあ先生も言ってみるね」と伝えた。

そして担任がマルチパネのところに行くと、B 児が「片づけない。もっと遊びたい」と訴える。担任がその気持ちも受けとめつつも、片付けだけということ伝える。そのやりとりを見ていた C 児が「片づけたら、もう帰るん？」と尋ねるので、「みんなで集まって“おはよう”って歌うよ」と伝える。すると D 児が「お母さんが遠足行ってくて言ってた」とつぶやいた言葉を聞いて、「遠足いく? 今日? 明日?」と遠足の話が出たので、担任が「おはようの歌を歌った後、遠足の話しよう」と伝える。

そんな会話をしているうちに E 児や D 児、少し遅れて F 児がマルチパネを外して運び始める。最初は片付けをしたくないと、家の中であぐらをかいて座り込んでいた B 児も中から出てきた。担任が「B もしよう」と声をかけると、マルチパネを持ち上げ「見て」と笑顔で一人で持てることを見てほしいと表しながら片付けに取り組んだ。



**責任性**  
自分で気持ちを切り替えて取り組んでほしい

**連携性**  
自分たちで声をかけあう姿を大切にしたい

**責任性**  
自分で遊んだものを責任をもって自分で片付けをしてほしい



- ・先の見通しをもち、気持ちを切り替えようとする  
(未来像を予測して計画を立てる力)
- ・自分の思いを言葉にして友達に伝える  
(コミュニケーションを行う力・他者と協力する態度)
- ・友達の言葉を聞こうとする(コミュニケーションを行う力・他者と協力する態度)
- ・自分のできることを考えながら片付けを進める(進んで参加する態度)